

並列表現的統合成分 ——從無題文到有題文

謝福台

開南大學 應用日語系 助理教授

摘要

日語的並列表現中有無題文也有有題文。命題為「主·述」所構成的無題文表示靠知覺所感知到的世界，即為現象描寫文，而另一方面，在有題文中也有些連接形式的前項與後項具有現象描寫文的性質。

在無題文中，統合前項與後項的成分有表示空間或時間的語詞。此外，前項和後項也可以由前後文所限定的時間空間來統合，或是被文章的標題所統合。

有題文的並列表現中，題目可包含在句子中，也可不包含在句子中。題目不包含在句子中時，題目或是相當於題目的語詞出現在前面句子中。而題目多為人、物體等主體或是場所。前項與後項之命題為「主·述」所構成的「不完全命題」時，表示觀察者憑藉知覺感受到的主體外表特徵，或主體的內側感覺，由題目或是相當於題目的語詞所統合。

關鍵詞：並列、無題文、有題文、現象描寫文、統合成分、不完全命題

並列表現の統括成分 —無題文から有題文へ—

謝福台

開南大学 応用日本語学科 助理教授

要旨

日本語の並列表現には、無題文におけるものもあれば、有題文におけるものもある。「主・述」からなる命題の無題文は知覚で捉えた世界を表す現象描写文であり、一方、有題文には、題目があるにも関わらず、接続形式の前件と後件は現象描写文の性質を持つものもある。

無題文においては、前件と後件を統括する成分は、空間や時間を表す語句がある。また、文脈によって限定された時・空間は、前件と後件を統括するものもあり、テキストのタイトルによって前件と後件が統括されるものもある。

有題文に属する並列表現には、文中に題目があるものと、文中に題目がない、すなわち題目または題目にあたる語句が先行する文にあるものがある。題目は人間、物体などの主体や、場所が多く観察される。「主・述」からなる「不完全命題」の前件と後件は、題目または題目にあたる語句に統括され、観察者が知覚で主体の外的特徴を捉えるものと、主体の内的感覚を捉えるものがある。

キーワード：並列、無題文、有題文、現象描写文、統括成分、不完全命題